

川崎医療生協

発行所 川崎医療生活協同組合 〒210-0804川崎市川崎区藤崎4-21-2 発行責任者 星野 俊平
定価 1部10円〒60円（購読代金は出資金に含まれています）TEL044(270)5881

11月号



川崎医療生協の現状

――〈9月末〉――

組合員	40,440人
出資金	1,484,245,500円

川崎医療生協では一世帯5万円以上の出資金をめざしています。



防災の講演に耳を傾ける組合員

今年のテーマ “人と人との つながりで 防災の まちづくりを”

本集会の最初の講演では「能登半島地震―友の会と民医連事業所のとくくみから」と題し、石川県健康友の会連合会の佐々木均事務局長が能登半島地震の被害の現状と復旧に向けた石川

「人と人とのつながりで 防災のまちづくりを」テーマに9月26日、「第26回川崎医療生協 組合員活動交流集会」（同会実行委員会主催）が、高津区の高津市民館で開かれ179人が参加しました。講演や分科会のと毎年恒例の「熟年成人式」が行われ、還暦から20年たった組合員の中で、川崎医療生協の新聞の配付者や「班」の班長、支部運営委員を担う人134人に感謝状が贈られました。

第26回

川崎医療生協 組合員活動交流集会

熟年成人式では134人に感謝状

講演の後は、「防災のまちづくりを考える」「医療生協の平和活動」「つながりづくり（支部活動交流）」「手芸教室・ふれあいカフェ」の4つの分科会に分かれ、学習と交流を行いました。「熟年成人式」は、今年134人が対象になり、そのうち21人が当日会場に参列。川崎医療生協の星野俊

4つの分科会

その後、川崎市役所危機管理本部の小林奈穂子係長が、川崎市の防災対策や住民が日頃から備えておきたいことについて話をしました。

民医連のとくくみと、大会数日前に起きた「奥能登豪雨」の被害状況と対策を話しました。参加者からは「能登半島地震災害時に、石川民医連の職員や組合員が、自らの家族も被災しているにもかかわらず、地域の人々のために奮闘する姿に、頭が下がり、自分たちの決意を新たにしたい」との感想がありました。



防災の分科会



手芸の分科会

平専務から感謝状と副賞の紅白饅頭が手渡されました（写真下）。大会に先立ち9月20日から25日までは、高津市民館の市民ギャラリーで組合員の作品展が開かれました。市民ギャラリーでの作品展

運動とコミュニケーション？

“熟年成人”21人にききました

健康の秘訣は？



- 小山美枝子（多摩区）
「よく食べて良く寝ること」
- 北川照子（多摩区）
「歩くこと 毎日6000歩く」
- 町井弘明（多摩区）
「キョウヨウとキョウイク（今日、用がある 今日行く所がある）を大事にしている。うちの中にいないで出歩く。そして平和活動をする環境運動をすること」
- 竹内勝（高津区）
「健康診断をきちんとやる 1ヵ月に1回は診察にかかり、先生の助言をもらう。全部守るのは大変なので、半分くらいは守るようにする」
- 天野久美子（高津区）
「太らないように健康管理をすること」
- 小林雅子（高津区）
「家にこもらないで、人とよくおしゃべりすること」
- 廣瀬和子（宮前区）
「1日1時間読書をし、10回笑い、100回深呼吸して、1000文字書いて、8000歩くことを目標。今でも薬は飲んでいない。健康診断に年に1回行く」
- 小石和子（宮前区）
「笑顔と好奇心。『おかしいなあ』と思ったことは、周りに聞いて勉強する」

- 澤本満子（宮前区）
「よく食べてよく休むこと」
- 緩鹿礼子（宮前区）
「家のことをして、熟睡する」
- 須永由紀子（宮前区）
「川崎医療生協の新聞を配ること。8件配っている」
- 井田高一郎（宮前区）
「毎日いろんなことに感謝して、犬のシベリアンハスキーのリコ君の散歩を欠かさず1時間歩く」

- 都丸茂信（宮前区）
「力いっぱい生きること」
- 渡邊陸男（宮前区）
「毎日動くこと」

- 柴田勇作（宮前区）
「山の仲間、スキーの仲間、合唱の仲間とお付き合いすること。最近は沖縄の山に登った」
- 石黒勝美（宮前区）
「朝起きたらラジオ体操。1日1万歩歩く」
- 伊藤良久（中原区）
「歌を歌う。卓球をやる。笑うこと。週に1度ちょこっと日本酒を飲む」
- 竹田王江（川崎区）
「80歳まで生きられてきたことに感謝しながら生きている」
- 奈良克己（中原区）
「テレビとけんかすること」
- 佐野セイ（川崎区）
「みんなと医療生協の活動にとりくみ、人を大事にすること。現在、支部運営委員など、みんな高齢化しているので、若い人にも参加してほしいと思い、診療所の職員と訪問行動をしている」
- 櫻井辰雄（幸区）
「高校野球の監督を30年やっていた。今でもバットを振っている」

は初めてで、ゆつくりと作品が見られ、組合員の活動を知ってもらうよい機会になりました。

組合員の作品展



▲藤崎北支部のペーパークラフト



▲たかつ支部の写真や切り絵

青い空

孫がある大学を受験することになりました。その大学では学力試験や学校推薦など自分に合った入試方法を選択できますが、孫は総合型選抜方式を選びました。この方式は大学と受験生のマッチングとも呼ばれ、大学が求める人物像に受験生があてはまるかどうかで合否がまきります▼大学側はまず志望動機と作文を事前に提出させ、個別面談で審査します。作文のテーマは「持続可能な生活を送る上で一番問題だと思ふことを示し、それについて行っていること、これから取り組みたいことを記述せよ」というもの。自分自身で問題を設定し、自分がどうしようとするのかを掘り下げる必要があります▼作文にとりくむ過程は、高校などの学校教育で注目を集めている「探求学習」と同じです。この入試に挑むことは、情報リテラシー、思考力、判断力、表現力、主体性など、生きるうちに磨きをかける機会になるでしょう。大学にとって、少子化のもとで意欲ある学生を確保する競争戦略のひとつでしょうが、受験生への教育効果は見逃せません。孫にはこの受験を楽しんでほしいと思っています。

編集委員 木下 隆成

健康診断施設が

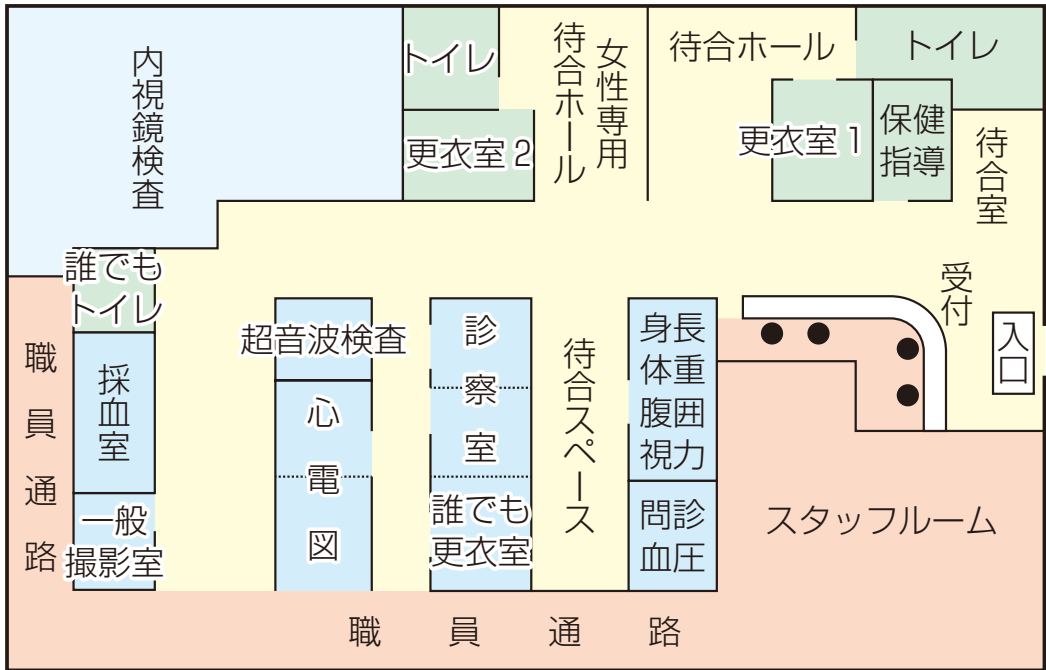
新たにオープン！

協同ふじさきクリニック4階 来年2月ごろ開設予定

民間の医療機関が健康診断事業の拡大をすすめてきているなか、健康診断に力を入れてきた川崎医療生協は、高齢者や女性、LGBTQ+の人もかかりやすい健康診断事業をすすめて、来年の2月ごろめどに、健康診断専用の施設を協同ふじさきクリニック4階に開設します。川崎医療生協は、昨年からの地域の健康づくりを推進していくために、健康診断に力を入れてきました。

川崎医療生協は昨年3月に保健予防事業部を設置し、川崎市内に限らず営業にまわり、レントゲン車を出して出張健診などを行い、健診受診者を増やしてきました。2023年度の健康診断収益は2022年比108.5%となり、2024年度の健康診断収益は前年度比112.4%まで増やす計画にしています。今年度に入り、組合員を中心に、女性だけの出張がん検診や、平日働く人が休みの日に健康診断が受けられるように日曜健診の回数も増やしました。

誰にでも優しい
新しくできる健康診断施設のテーマは「誰にでも優しい健診施設 誰にでも優しい健診運営」です。施設内には、女性専用の待合ホールを設け、女性が検査着を着た状態でも安心して待っている待合室を作ります。また、「誰でもトイレ」や「誰でも更衣室」などを設置しLGBTQ+の人も



介護福祉フェスかわさき 今年も開催!!

介護と福祉を身近なものに感じてもらえる「介護福祉フェスかわさき」(同名実行委員会主催)は、今年で6回目を迎えます。今年も、医療介護の無料相談や身近な問題の相続、葬儀の紹介や、健康チェック、無料マッサージコーナー、介護保険のサービスを紹介する展示、お子さんと一緒に楽しめるクラフト・あそびコーナーなど盛りだくさんです。メインステージではキッズダンスや医療講演、川崎出身バンドの演奏があります。

ご家族でぜひお越しください。

日時: 11月17日(日) 午前10時半～午後3時半
場所: 川崎市教育文化会館 1階イベントホール、1階大会議室
問い合わせは 川崎医療生協 介護福祉事業部 山口事務課長 電話080-4836-8057

健康相談会のご案内

川崎すみれ薬局では、薬剤師による健康相談会を年4回開催しています。テーマは季節に合わせています。詳しくは薬局窓口でお尋ねください。

川崎すみれ薬局 ☎044-287-7510 ふじさきクリニック隣	川崎薬局 ☎044-299-4780 川崎協同病院隣	大師薬局 ☎044-266-5759 大師診療所隣
そよかぜ薬局 ☎044-533-1223 川崎セツメント診療所ななめ前	川崎コスモス薬局 ☎044-355-6395 京町診療所隣	くじら薬局 ☎044-820-0331 久地診療所近く

一般社団法人メディホープかながわ 藤沢市藤沢 854-11 ☎0466-52-6950

やさしい 生命科学の歴史 人間の過去・現在・未来

第47回 人間修理の医学③カーティ細胞療法

協同ふじさきクリニック 所長 桑島 政臣

がんの治療には、手術・抗がん剤療法・免疫療法・放射線療法などがあります。治療方法はがんの種類、進行の程度によって選択されます。今回は白血病の新しい治療法、カーティ細胞療法について述べます。この治療方法は、患者自身の免疫をつかさどるT細胞をいわば修理する治療法です。T細胞(Tリンパ球)は、免疫系で最も重要な細胞の一つで、がん細胞を直接退治する作用がありますが、これを患者から取り出して製薬会社へ送り、がん細胞を攻撃するように遺伝子を変えて患者の体内に再注入します。

今回もChatGPTに聞いてみました。「カーティ細胞について教えて500字くらいで?」

『CAR-T細胞(Car T cell)は、遺伝子工学によって作られたT細胞の一種で、がん治療に用いられる先進的な免疫療法です。通常、T細胞は体内で異常な細胞を認識して攻撃しますが、がん細胞はこれを回避するメカニズムを持っています。そこで、CAR-T細胞療法では、患者自身のT細胞を採取し、がん細胞を特異的に認識できるように遺伝子操作を行います。この操作により、T細胞にはがん細胞に特有の抗原を認識するキメラ抗原受容体(CAR)が装備され、がん細胞をより効果的に攻撃できるようになります。CAR-T細胞療法は特に血液がん(急性リンパ性白血病や非ホジキンリンパ腫など)で高い効果が確認されていますが、固形がんに対する効果や副作用の問題(現在は3264万円)が期待されています。』

2019年5月に商品名キムリアというカーティ療法が一部の白血病に保険適応されましたが、薬価は1回の治療で3349万円(現在は3264万円)です。

も、現在も研究が続けられています。主な副作用としては、細胞因子放出症候群(CRS)や神経毒性などが挙げられ、これらの管理が重要です。この療法は、一部の患者にとっては画期的な治療法として期待されていますが、高額な費用や適応範囲の限界も課題となっています。今後の技術進展によって、より多くのがん種に応用できる可能性が期待されています。』

カーティ細胞治療の流れ (TechnoProducer様HPより)

くらし・社会

コラム
時の風

断罪される司法、検察

司法は公平に迅速に再審を進めなかった責任をどうとるのか。無罪判決を真摯に受け入れない検察の傲慢は許されるか。

9月26日、静岡地方裁判所は「袴田事件」の再審の判決で、袴田厳さん(88)に無罪を言い渡した。1966年6月、静岡岡清水市(現静岡市清水区)で一家四人が殺害されたこの事件で、強盗殺人などの容疑で袴田さんが逮捕されてから58年余、死刑が確定してから約44年、ようやく無実の訴えが認められた。

なぜこんなに時間がかかったのか。真実を見極めるのにこれだけの時間が必要だったというわけでは全くない。再審に関する法律が未整備なこともあるが、被告人の権を配慮せず、審理に異常ともいえる時間をかけた裁判所の怠慢と、同じく裁判を長引かせた検察の傲慢な対応がその理由だ。

再審前の原裁判から問題になってきたことのひとつである。また、再審では新たな証拠が登場した訳でもない。つまり、裁判所がどう判断するかにかかっていただけで、いい換えればもっと早い段階で無罪判決が出ても妥当だったということだ。

この事件は、当初から袴田さんが無実だという可能性を示す証拠はいくつもあった。また、袴田さんは長時間にわたる過酷な取り調べのなかで犯行を自白するが、裁判開始後は犯行を否定した。つまり「100%黒」という根拠はなく、検察は死刑を求刑し、一審の静岡地裁の判決では裁判官三人のうち一人は無罪という心証をもっていたに

もかわらず、結論は死刑だった。いうならば、犯人かどうかは限りなく灰色のまま「多数決」で死刑判決は下されたことになる。

1981年4月再審請求が出されるが、27年も経って棄却が確定、すぐさま第二次再審請求が出され、さらに15年を経て無罪判決が出た。再審の過程をみると、国家権力として身分と生活を保障された検察側と手弁当で闘う弁護側は、立場からして不公平で、かつ検察側は弁護側に証拠を開示せず、それをまた裁判所は認めてきた。階級の違うボクサーが、不公平なレフェリーのもとで闘っているようなものだった。今回の判決について、

畝本直美検事総長は、「承服できないもので、控訴して上級審の判断を仰ぐべき」だとしながら、控訴しないとした。情けないことにその理由は明快ではなく説明になっていないので、識者から批判が噴出した。

畝本氏は、事件発生から今日までの取り調べや証拠の問題点など、警察・検察が犯しただろう誤りの可能性を真摯に考慮したとは到底思えない。他者に厳しく自らに甘い検察の体質をさらけだし、一人の人間を死の淵に長期にわたり追いやっていくことを、公僕としてそして人間として恥ずかしく思わないのだろうか。弁護側は、畝本氏の発言が袴田さんをいままも犯

人と考えているに等しいな

どとして、名誉毀損にもあたりかねない、と痛烈に批判している。

もう一つ問題がある。畝本氏は、袴田さんを犯人であると立証しようとした理由について、「4人の命が犠牲になった重大事犯につき」とも言っているが、天に唾するとはまさにこのことである。

この事件には犠牲者の被害状況などからして怨恨による、暴力団関係者などの犯行を疑わせるものが当初からあった。しかしそれを追わず、袴田さんだけに容疑を絞り自白を強要し、逮捕、起訴した警察・検察は、被害者のために真犯人を取り逃がした可能性も十分あるということを肝に銘じるべきである。

(波)

ハルモニたちの過去と今の記録

映画『アリランラプソディ』

12月に横浜・川崎で上映会



事前予約
QRコード

川崎南部、在日コリアンの集住する桜本地域で老いてなお力強く生きる

ハルモニ(おばあちゃん)たちの姿をとらえたドキュメンタリー映画「アリ

ランラプソディ」の特別上映会(実行委員会主催)が、12月、横浜・川崎両市内の全6会場で上映されます。

監督は在日二世の金聖雄。デビュー作品「花はんめ」(2004年)の撮影で川崎に通い始めてから四半世紀を経て、「ハルモニたちの過去と今を

きちんと記録しておかなければ」という使命を背負い映画を完成させた

スケジュール

12月8日(日) 14時開始
かながわ県民センター 2階ホール
横浜市中区山下町3-1

12月14日(土) 14時開始
フェリス女学院大学緑園キャンパス
横浜市泉区緑園4-5-3

12月6日(金) 18時開始
在日大韓基督教会川崎教会
川崎市川崎区桜本1-8-22

12月12日(木)
第1回上映 10時開始
第2回上映 14時開始
かわさきゆめホール
川崎市中原区下沼部1880

12月14日(土) 10時開始
川崎医療生活協同組合 久地診療所
川崎市高津区久地4-19-8

12月21日(土) 10時開始
川崎医療生活協同組合 本部 かりん会議室
川崎市川崎区藤崎4-21-1

各回とも30分前開場

言います。

日本の植民地政策や戦争に翻弄され貧困と差別に苦悩してきた歴史や、

仲間との交流、自己表現をたいせつにする識字学級、地域の人々と一緒に

日券での入場はキャンセル待ちのみ。

問い合わせは、arirang_rhapsody.kawasaki@gmail.comか、080-4656-6014(三浦)まで。

市内の会場は狭いため当

からだにやさしい料理 第68回

発酵食品を食べよう! ②0

★ さつまいもとくるみのヨーグルトサラダ ★

川崎協同病院 管理栄養士 柏木 まり

【材料】(2人分)

- ・さつまいも.....200g
- ・くるみ(無塩・素焼きタイプ).....30g
- ・ヨーグルト(無糖プレーン).....60g
- ・マヨネーズ.....大さじ1
- ・塩.....少々
- ・粗びき黒胡椒(粉末でも可).....少々

【作り方】

- ① さつまいもを1.0~1.5cm角に切り、10分ほど水にさらして水気を切る
- ② ①を耐熱容器に入れてラップし、電子レンジで軟らかくなるまで加熱する(600wなら3~4分)。加熱後は粗熱をとる
- ③ くるみは包丁で粗みじんに切るか、袋に入れてめん棒などで粗目に砕く
- ④ ②のさつまいもに、③のくるみ、ヨーグルト、マヨネーズ、塩、胡椒を入れてよく混ぜ、冷やして完成

♥一口メモ: さつまいもの食物繊維とヨーグルトの乳酸菌は相性がよく、腸内環境を整える効果がある。さつまいもをかぼちゃに変えてもおいしい

1人分 294kcal たんぱく質4.6g 塩分0.3g



組合員の広場

元気に筋力維持で盛り上がる

10月10日、宿河原支部のダンベル班は、小松厚志トレーナーの指導で体操をしました。出席者は10人でした。「ロコモ25」という25個の質問に答えながら、身体の状態や生活の状況を自覚し、ロコモ度を測定するチェックもして、将来の自分を推察するという学習をしました。25問中何点取れるかによってこれからの人生が見通せるので、参加者みんな盛り上がりました。肌寒い日でしたが体がポカポカしてきました。



「ロコモ25」で自分の身体をチェック

議会傍聴ツアーを開催

9月12日。橘支部が新しくなった川崎市役所見学と市議会の傍聴ツアーを行いました。



晴れた日の展望室から見た羽田方面

市役所につくと真っ先にエレベーターで24階へ。階段を上って展望ロビーに出ました。北に多摩川がうねっていて、競馬場、遠くは東京タワー・スカイツリーが見えました。東に回って眼下の下に稲毛神社、臨海部の煙突が林立の工場地帯、羽田空港からの離陸上昇中の飛行機が見えました。南側のビル群の屋上には、ヘリポートマークが3カ所ありました。西側からの富士山はあいにくの曇り空で見えませんでした。屋上からの展望を楽しんだ後、議会の傍聴です。この日は渡辺学議員の代表質問で、災害対策や子育て支援、教育、障害者施策、高齢者施策等で1時間半に渡りました。

新しい川崎市役所には食堂はなく、近くのお店で遅い昼食をとり、参加者と交流しました。

橘支部 松本 久子

多摩川散策に36人参加

10月18日、曇り空の下行われた、大師健康づくり委員会主催の多摩川散策は36人が参加し、大師線の港町駅から千歳館（最寄り駅は東門前駅）まで多摩川の土手を元気に歩きました。途中の水門（最寄り鈴木町駅）から合流する人などそれぞれの体調や体力に合わせて歩きました。



みんなで歩くのも楽しい

港町駅前の広場では、大師診療所の赤松美穂事務長から挨拶とインフルエンザやコロナのワクチン接種の案内を行い、加藤光義理事によるストレッチを実施してから出発しました。

マイナ保険証の学習会開く

9月27日、協同ふじさきクリニック組合員ルームで、

浜町支部主催の「マイナ保険証の学習会」を開催し参加者は6人でした。講師は川崎市社会保険推進協議会の光野正洋さんで、さまざまな資料を用意して説明しました。

光野さんは「国がマイナンバーカードを推進する理由は、国民の多数に利用させ、集積されたデータを企業が利用しやすくするため」と話し、マ

浜町支部 相良 晴江

健康づくり委員会でバザー実施

9月20日、協同ふじさきクリニックの組合員ルームで、協同地区健康づくり委員会主催でバザーを行いました。今年も組合員の協力でたくさん品物が集まりました。班でつくった作品の小物や、手芸が大好きな人の小物、手編み品、クラフト紙のカゴ、バッグなどが好評でした。予想外だったのはこの日は、秋だというのに最高気温が35度だったので冬物衣料が売れ残りしました。健康づくり委員会のメンバーは、「出品・販売に協力した人に感謝しています」とうです。



みんなの協力によるバザー

「にじともルーム」が引っ越しました！

宮前区の組合員ルーム「にじともルーム」が、9月26日、宮前区土橋6-10-7鈴木ビル2階に引っ越しました。東名川崎インターチェンジのすぐそばです。これまでの「にじともルーム」は、エレベーターのない3階の部屋だったもので、上り下りが大変でした。おまけに駐輪スペースがまったくなかったため、徒歩やバスで来るか近隣の知り合い宅へ止めさせてもらわなければなら大変不便でした。新しい場所は駐輪でき、部屋も2階なので（階段ではありませんが）、大分楽になりました。

新しい組合員ルームは、徒歩で犬蔵バス停から4分、または土橋バス停から6分です。健康まちづくり推進部 荒金 崇二



新しい場所で初の運営委員会

内装は、料理屋が入っていた部屋を居抜きで借りたので、業務用のキッチンとカウンターがあり、大きな冷蔵庫もすべて使用可能なので、工夫次第で色々な活動ができます。

光野さんは「マイナ保険証は5年毎に更新することになっている。高齢の単身者や身障者には更新の手続きに行くことは困難をともない、忘れてしまう人も多いのではないかと危惧している」と話しました。

生協の活動を説明して承諾を得ているので、合唱や健



1951年に地域住民が「自分たちが安心してかかれる病院や診療所が欲しい」という思いから、お金を出し合いにつくったのが、川崎医療生協です。私たちは、病気や介護が必要な時だけではなく、地域で安心して暮らせるまちづくりも進めています。



川崎医療生協への加入を、組合員さんには出資金の増資のご協力をお願いいたします。

組合員の広場

平和の大切さを学ぶ

川崎医療生協の平和委員会主催の「第五福竜丸展示館見学会」に、小田支部 ライラック班のメンバーで参加しました。参加した理由は、北朝鮮が水爆実験をしたというニュースを聞き、核兵器について知らないことが多かったためです。

展示館内にある第五福竜丸の大きさに驚き、また、日本籍の船112隻のマグロ漁船や乗組員のほか、米国民や近隣諸国、さらに、日本列島にも大気の循環で核の灰が降ってきたことなどの説明を聞いて驚きました。

合いました。非常に意義深い一日となったことを感謝していたら、日本被団協のノーベル平和賞受賞のニュースが飛び込んできて、世界中には核の脅威を感じている人たちがいることに共鳴しました。

小田支部 関谷 治子



知らないことがたくさん展示

支部ニュース担当者交流会開催

10月10日に、高津市民館会議室で、川崎医療生協機関紙編集委員会が主催で「支部ニュース担当者交流会」が開かれ、支部ニュース担当者など20人が参加し記事の書き方についての学習と交流をしました。



川井編集顧問の話を聞く参加者

学習は、新聞「川崎医療生協」の川井龍介編集顧問を講師にすめられました。新聞に掲載する記事がニュースなのか、レポートなのか、寄稿なのかなど記事の種類があることを説明。記事を書く上で必要な要素「5W1H」(いつ、どこで、だれが、

なにを、どのように、なぜ)を入れるないと相手に伝わらないと説明しました。川井氏は参加者に、「今日今ここで、行われている、担当者交流会の記事として書いてください」と、投げかけ、参加者数人から書いた原稿を読んでもらい、川井氏が講評しました。学習の後には、支部ニュースを作るうえで悩んでいることなどを話し合

編集委員会

「血管のはなし」を学ぶ

9月14日、観音支部主催で、川崎区藤崎のかりんビル3階で、栗原永実保健師を講師に招き「血管のはなし」の学習会を行いました。

目に見えない血管についての学習会は、さまざまな病気の前兆を知る上での参考になりました。参加者からは、体の部分的な不調で何科を受診したらいいかわからない時はどうしたらいいのか質問がでました。後半はペットボトル体操を行いました。ちょうど



血管の話から色々学びました

協同地区 観音支部 プラチナ班 伏島 京子

【学習会】

「不登校をみんなで考える」
～ひとりで悩まないで～

日時 2024年12月7日(土)

午後2時開始

場所 教育文化会館 4階

第1学習室

定員 50人

講師 村上 好さん

「ポジティブ不登校のすゝめ」

申し込み

2024年11月19日(火) 午前10時から

電話でお申し込み

(044-233-6361)



第30回記念 合唱団いちばん星コンサート

つぎの、一歩へ。

日時 2024年12月22日(日)

午後1時半開場 2時半開演

場所 多摩市民館大ホール

内容 オープニング 青い空は
第1部 うたいつぎたい歌
第2部 「合唱団かわさきユースハーモニー」ステージ
第3部 みんなで歌おう
第4部 平和のステージ

指定席 1500円 自由席 1300円

子ども・障がい者 500円

問い合わせ 高橋 (090-4608-7782)
大原 (090-5425-5885)

班会日誌

9月度

32支部 125班 836人

大師レインボー支部	人
野菊の会	5
南大師支部	
グルメ	3
大師中央支部	
エンゼル①	4
おしゃべり喫茶	7
カミツ	3
ピーガン	4
マーガレット	4
レインボーの家	11
わろてんか	3
建設一般	9
東門前	6
年金大師	4
民商	3
大師フレンド支部	
おしゃべり	5
おりづる	3
お絵かき	6
さくら会	5
ちぎりえ	3
ひまつぶし	3
リトルハンズ	8
リフレッシュ	7
リメイク	8
藤崎北支部	
てくてく	5
健康麻雀	9
向日葵	4
樺	4
藤崎南支部	
ライオンズ	7
観音支部	
あるこうかい	12
プラチナ	11
健康マージャン	19
池上新町支部	

ひまわり	モルック
手芸	額入り花飾り
翼加	ペットボトル体操
桜本支部	
さくら	配付者交流会
黄金	認知症の早期発見の大切さ
	組合員交流会
	認知症早期発見の大切さ
大島支部	
あかり	書道
未摘花	ストレッチ・ダンベル体操
浜町支部	
エチュード	おしゃべりサロン
クラブ	カゴ作り
ブアカーネーション	フラダンス
ブルメリア	フラダンス
渡田支部	
モルック班	モルック
歩いて楽しむ会	ちょこっとウォーク
京町支部	
セカンド	体操(自強術)
古流生花	生け花
手芸	つまみ細工・ストラップ作り
雀(すずめ)の学校	皆元気ですか!
小田支部	
ころぼくる	食事・おしゃべり会
たんぽぽ	久しぶりに自宅で班会を開いた
ちょこっとウォーク	酷暑です
ラジオ体操	異常気象
夏つばき	お月見
桜	ボッチャで遊ぼう
川崎駅前支部	
茶話会	茶話会
IT	秋の植物・果物を描こう
キャロット	9月ニュース仕分
浅田支部	
おりづる	ハイビスカスの花飾り色紙に
けやき	体操・ウォーキング
こまくさ	横浜市民防災センター体験ツアー

人	ばあばとじいじの手習い
4	ひまわり
12	東小田支部
10	さつき
5	小田7丁目公園
5	御幸支部
5	さくら
5	紅葉
5	南河原支部
4	オレンジ
4	シネマ班
3	マウンテンヒルズ
3	モンチッチ
7	絵手紙
4	古向支部
4	くちなし
8	さくら
4	日の出
5	新川崎支部
5	やよい
4	元美人
3	玉川支部
3	きら美
8	山王町下沼部
4	青空平間会
4	住吉支部
6	コスモス
3	モルック
16	雲雀
25	気功と太極拳
3	小杉支部
18	さくら
3	満ノ口支部
8	いきいき
5	いまが青春
6	おたまじゃくし
5	バードウォッチング
6	ゆいの会
5	囲碁サロン
23	公園体操

人	水彩画
5	橘支部
7	アカシヤ
11	シクラメン
4	すずめ
5	ダンベル
4	つれづれ
5	ブラザ
6	フラワーレディ
10	梶ヶ谷
4	癒しのお手玉
3	たかつ支部
7	クイーン
4	宮前支部
3	コスモス
7	さくらそう
4	シネマ
3	しんぶんちぎり絵
3	すみれ
6	ひまわり
10	五所塚
6	南平
10	白幡台
6	長尾塚支部
5	アジサイ
5	すずめ
6	ひまわり
4	ラフランス
5	歩歩路
10	宿河原支部
4	すこやかダンベル
6	麻生北支部
5	コーラスミール
4	マフマフ
5	モルック
12	麻生南支部
4	お絵かき
3	キルトのなかま
3	なんじゃもんじゃ
4	ほほえみ
10	食と農を考える会
	和布ソーイング

人	秋の花や果物を描く
6	防災出前講座
28	楽食会
7	健康麻雀
5	骨密度チェック
13	健康麻雀
15	脳トレ体操
13	散策打ち合わせ
3	ニュースセット、建国セミナーDVD
7	お手玉リズム体操
4	映画上映会
5	座談
3	折り紙
23	平和のつどい
3	作品作り
5	体操、認知症について
3	体操
6	モルック
4	体組成チェック
5	握力、足指力
7	骨粗しょう症について
4	脳トレーニング
9	転倒防止体操
3	マージャンを楽しむ
4	ペットボトル体操
5	筋力維持と親睦
7	発表会に向けて
7	展示に向けて
4	モルックで楽しく体力づくり
4	未完成作品の続き
6	クリスマスのタペストリー
7	川崎市役所 羽田空港見学
15	ストレッチング
6	どうなる日本の食料 学習会開催
4	パザー出店の準備

「みんなで楽しい班会」3人以上集まれば、班がつくれます。近くの町内会事務所や組合員のお宅、病院・診療所の組合員ルームなどを利用して、楽しい班会をひらきましょう。

読者の広場



第106回

現代に描かれる川崎編
『島田雅彦「ロココ町」』

マルチに活躍

るようになります。

また島田は政治や社会に対する言論を主張し、オペラやクラシック音楽にも造詣が深く、法政大学国際文学部教授として、マルチな活躍をしています。そしてこれまで

0年に集英社から出版された作品で、幻想世界を舞台に失踪した友人を探す予備校教師の「ぼく」が、超遊園地都市「ロココ町」に迷い込み、消えた友人を探す物語です。一体「ロココ町」とはどんな町なのか？ 作中にはこんな描写があります。



紹介してきた岡本かの子や佐藤惣之助以来の川崎市出身の文学者とも言える人物です。

よみうりランドがモデル？

『ロココ町』は199

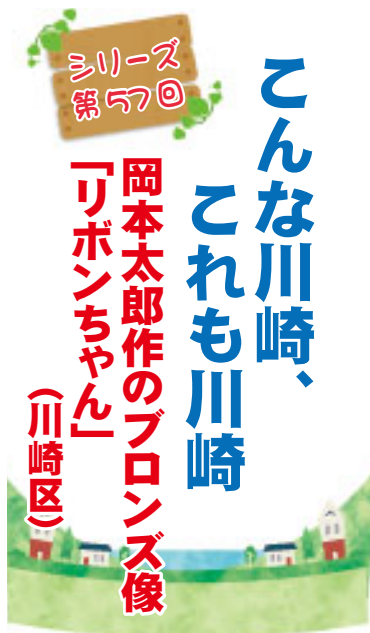
「ロココ町に定住しよう」と考えるのは奇怪な人の部類に属する。先祖代々の地に住む農民はわずかにいるが、それ以外は全く移民であった。それもそのはずだ。十年前、ここには丘陵と遊園

純文学とSF

島田の作品はいわゆる

地しかなかったのである。有象無象の人間は大挙してくるが、決して居つかない。この僕にしても、住所は不定だ。――筆者の感覚では「ロココ町」はよみうりランドをモデルにしているように思いました。もともと里山だった多摩丘陵に戦後資本主義が急速に膨張し、資本の中心である東京の周囲に人口急増により、人間の本質が見えなくなる風景を描こうとしたのでしうか。1990年とい

ポストモダン文学に分類され、一般的に近代文学の特徴に反する部分を持つ文学と言われている。これは近代文学への反立、否定的な内容である以外に、明確な定義はありません。



東西に約31km、南北に約19km。東京と横浜に挟まれた東西に細長い川崎市は、内陸の北側と海側の南では街の風景もかなり違います。そんな川崎の知られざる見どころのなかで、今回は、川崎市生まれの芸術家・岡本太郎の作品で、川崎市立藤崎小学校にあるブロンズ像「リボンちゃん」を紹介しよう。

健康まちづくり推進部 松田祐加子

川崎区藤崎の藤崎小学校にいます。登下校をいつもボンちゃんはいいます。大きなリボンちゃんという呼び名が天に向かって両手を広げ、丸い球に乗っています。地球に乗って遊んでいる姿が表現されているそうです。

リボンちゃんは、校庭を正面から見ているように設置されています。藤崎小の子どもたちに『おはよう』『さようなら』と言えるように登下校用の南門に向かって斜めに設置され

さと迫力に見いつてしまっていました。ゴルフボールは、視覚障がい者の方の競技です。試合会場全体が静寂の中、鈴の入ったボールの音だけが聞こえてくる、歓声もない競技です。私はテレビを見ながら大声で応援をしています。選手のみなさん感動をありがとうございます。

感動をありがとう

高津区 福川とも子(6)

パリ、オリンピック・パラリンピックは、選手1人1人の頑張った成果が試される時でした。ただ、池江璃花子選手

の「あんなに努力したのに報われないんだな」と泣き崩れた姿を見た時、心が重くなりました。でも、彼女は次のオリンピックを目標にしているのを知って応援しなくっちゃと思いました。パラリンピックは、車椅子ラグビーのルールのわかりやす

認知症マフに興味

多摩区 市川幾一(74)

組合員さんのマフマフ班の認知症マフのお話は興味深かったです。



藤崎小学校にあるリボンちゃん

リボンちゃんに会いに行くには

JR川崎駅東口より「水江町」行きバスで「池藤橋」下車徒歩1分。土日祝祭日、年末年始を除く平日9時～17時に見学可能。事前に学校に電話連絡のうえ、北門インターフォンで職員室に申し出て下さい。無断立ち入り禁止。リボンちゃんの近くには川崎発祥の「伝十郎桃」の木があり、これは川崎市の地域文化財になっています。

に尽力したつながりで、作品を提供してくれるようお願いしたそうです。

「太郎さんは、実際に藤崎小に出向き、子どもたちの図工の作品を見たり、子どもたちの様子を校長室から眺めたりして、数ある作品の中からリボンちゃんを選びました」と学校の先生は話します。プレートには岡本太郎の躍動感のある字で「喜び」と刻まれています。

岡本太郎は幼少期、学校生活になじめず小学校の転校を繰り返しました。芸術家として大成した後、「人間はその数だけ、それぞれ、その姿のまま、誇らしくなければならぬ」(著作「強く生きる言葉」から抜粋)という言葉を残しています。今日も子どもたちを見守っているリボンちゃんの姿に、岡本太郎の子どもたちへの深い愛情が感じられます。

私の戦争体験 ⑪⑧



伝えたい思い

宿河原支部 久保田 嬌子(90歳)



勤労奉仕の思い出

私は6人兄妹の長女です。東京の鶴川村(現・町田市鶴川地区)で1934年に生まれて育ちました。鶴川は丘陵に囲まれた水が豊富な盆地で、夏には蛍が飛んでいました。ほとんどが田んぼで、田植えの時期は緑一色に、秋には黄金色になる光景を今でも思い出します。



稲刈り後の田んぼ (筆者提供、1957年)

戦時中、収穫した米のほとんどを国に供出し、私たちが食べるご飯は家族用に育てた芋や大根でかさましていました。村の若者や一家を支える父親が次々と出征していききました。無事を祈って旗を振ったり歌ったりのにぎやかな見送りは最初の頃だけで、だんだんと寂しいものになりました。出征で男手をなくした家は「留守家庭」と呼ばれ、村中で助け合いました。小学校4年から5年の頃、平日の午前中は学校で国語や算数の勉強をしました。午後は、音楽や体操の時間でしたが勤労奉仕に変わり、遠くの農家まで訪ね、草むしりや芋ほりなどを手伝いました。

した。音楽の勉強ができなかったことは、今でも悔しく思っています。学校が休みの日は家の畑を手伝いました。当時はみんながそんな生活だったので、嫌だとも疲れたとも思わず、当たり前のことだと思っていました。



鶴川村で掘り出された焼夷弾 (町田市立自由民権資料館所蔵)

戦争の被害は、都会ほどひどくはありませんでした。終戦のころには、村にも米軍機が飛んできました。学校には防空頭巾を携帯し、飛行機の音がすると身を伏せていました。空襲警報が出ると、それぞれの家がつくった防空壕に隠れました。山林に焼夷弾が数発おとされたことがありますが、木が2〜3本焼けましたが、木が2〜3本焼けただけで、寂しくて泣

いている子どもを見かけたことがあります。戦後の話になりますが、2度目の勤労奉仕をさせられました。新制中学校を建設するための整地の手伝いで、「もっこ」という道具を二人で持ち、山を切り崩した土をふもとまで運ぶ作業でした。重機などはなく、人海戦術で建物の基礎を築いたみんなの力はすごいと思いました。

戦争は人も物もなくしげ口にしてしまいます。それを元に戻すことは大変なこと。いま起きている戦争をみていると、「なぜそんなことをするのか」「どうやって元に戻していくの」と悲しくなってしまう。



若杉民。劇団民藝所属。母は同劇団の南風洋子(故人)。民藝生の際の担当医は野末悦子医師(久地診療所初代所長。画家を志した経歴があり、野末は「絵が描ける女優」として京浜協同劇団に紹介した。



今年も数百名の大編成が予想される

幼児からシニアまで数百人の市民がひとつの音楽をつくりあげる企画、「少年の祭典ボレロ、12月8日川崎区で開催」の音楽会が、12月8日、川崎区のカルッツかわさきホールで開催されます。当日は、魅惑的なリフレインで知られるモーリス・ラヴェルの名曲「ボレロ」のほか、吹奏楽による「となりのトトロ・メドレー」、コーラス、フレンチが披露されます。この祭典は、洗足学園音楽大学で学んだ声楽家、演奏家が川崎市宮前区ではじめた音楽活動「芸術村あすなろ」の提唱ではじまりました。「地域の人々と一緒に子どもたちが育つ土壌をつくる」という理念にもとづき、年齢や経験を問わず演奏に参加できる形式をとっています。今回は1986年の第1回から数えて72回目で、公募による参加者



石ころでリズム練習

つては初心者から上級者までが参加しています。また原曲にないコーラスパートが書き下ろされました。演奏の始まりは大地の鼓動を思わせるスネアドラムで、これが打ち続けられるなか、徐々に違う楽器が加わっていき、やがて大合奏がホールに鳴り響きます。安部さんは「音楽は子どもたちの素直な心をはぐくみ、周囲を笑顔にします。ぜひ聴きにきてほしい」と呼びかけています。

入場無料。午後3時半開場、4時開演、終演6時15分(予定)。会場へのアクセスはQRコードから。問い合わせは、ボレロを演奏する会事務局(電話044-854-1649)まで。

川崎市多摩区の明治大学平和教育登戸研究所資料館が、11月20日から第15回企画展「風船爆弾作戦と本土決戦準備」を開催します。同展は、第二次世界大戦末期に陸軍登戸研究所が偏西風の実態を解明し、開発・製造に全力をあげた無人兵器「風船爆弾」をとりあげます。この兵器を量産するため当時の女学生が動員され、

9300発もの風船爆弾がアメリカ本土に向け発射されました。また同時期には本土決戦の準備が本格的にすすめられました。これらの計画の意図やこだわり、敗戦時の証拠隠滅の指示などが、残された資料から検証され提示されます。同展は5月31日(土)まで。入館は無料。期間中、関連イベントとして、山田朗館長が参加者

大人から子どもまで数百人が参加 演奏経験を問わない音楽会

少年の祭典ボレロ、12月8日川崎区で開催



カルッツかわさき
アクセスマップ

隠された秘密戦の事実に向ける 企画展「風船爆弾作戦と本土決戦準備」開催



明治大学平和教育登戸研究所資料館

と展示をめぐりながら見どころを解説する企画や、講演会が行われます。要予約。詳しくはホームページで。

明治大学平和教育登戸研究所資料館
(川崎市多摩区東三田1-1-1 明治大学生キャンパス内)。
〈開館日時〉水曜～土曜・午前10～午後4時。
〈臨時休館〉12/26(木)～1/7(火)、1/18(土)、2/5(火)、2/7(金)。
〈アクセス〉小田急線生田駅南口徒歩15分。あるいは向ヶ丘遊園駅北口から小田急バス「明大正門前」行き終点下車徒歩5分。
〈HP〉<https://www.meiji.ac.jp/noborito/>
〈問い合わせ〉電話044-934-7993

戦争に送り出し失った命

京浜協同劇団65周年公演

「黒と白のピエタ」



テには若杉民が招かれました。この組み合わせは、傑出した作品と評された14年前の初演と同様で、今回の再演には、2年前に急逝した和田への追悼の意味も込められています。

公演は11月29日、30日、12月1日、6日、7日、8日の6日間、計10回。会場やチケット購入などの詳細は劇団まで問い合わせを。

ホームページ <https://www.keiinkiyodougeki-dan.com/> 電話044-511-4951。

子と孫を送り出して失った、嘆きと怒りを描いたもので、ケーテの版画作品のタイトル「種を粉にしてはならない」がセリフとして観客に迫ります。

脚本は座付作家の和田庸子、演出は東京芸術座の杉本孝司、主演のケー